

平成 27 年度 福島県労働保健センター 研究助成報告書

研究題目：原発事故後の福島県において活動する保健師の支援モデル

研究代表者：小宮ひろみ（福島県立医科大学附属病院性差医療センター）

研究分担者：後藤あや（福島県立医科大学総合科学教育研究センター）

事業評価者：町田宗仁（金沢大学医学系国際保健学教室）

【背景】

福島県立医科大学附属病院性差医療センターは、女性の健康増進に向け、福島県民を対象とした啓発セミナーと市民公開講座を定期的に開催している。また、センター長を同じくする福島県立医科大学女性医師支援センター（現・男女共同参画支援室）は、原発事故直後、放射能汚染に不安を持つ住民と患者のニーズに対応できるよう、女性医師を対象とした研修会を定期的に開催した。これらの活動を基盤に、上記研修に参加した女性医師を講師として、市民と医療機関の橋渡しの存在であり、住民の健康のゲートキーパーとして活動している市町村保健師を対象に、以下の3点を主目標とした企画を出前講座として実施してきた。

1. 放射線の子どもへの健康影響に関する保健師の知識の向上
2. 保健師同士、保健師と医師の情報交換システムの推進
3. 保健師自身のストレスの不安の軽減

福島県立医科大学公衆衛生学講座が平成 23 年度に試験的に実施した経験を踏まえ、平成 24 年度からは当センターが加わり、大学附属病院の地域貢献事業として、平成 25 年度から福島県労働保健センターの助成を受け、平成 26 年度からは災害医療総合学習センターが加わり、県とも協力して県保健師現任教育の枠組みの中で、事業をスケールアップしてきた。

震災後 5 年が経過する平成 28 年度は、これまでの活動を総合的に評価して、今後の事業展開について検討した上で、成果と展望を取りまとめることを目標とした。

【方法】

福島県および県内自治体の保健師等、保健福祉に従事する者を対象として、座学とグループワークの2部構成からなる研修を、「福島県保健師現任教育指針」の枠組み内で、6回にわたり実施した。講師は、福島県立医科大学に所属する教職員を中心に、また、太田西ノ内病院、大阪府立母子保健総合医療センターの医師も招聘した。主なテーマは、放射線シリーズ（例：放射線の健康リスクに関するコミュニケーション、放射線誘発甲状腺癌と甲状腺健診）、ライフステージ別シリーズ（例：健診で気になる子の支援、循環器疾患予防、骨粗しょう症・ロコモティブシンドローム対策、など）、保健活動シリーズ（例：ヘルスリテラシー、話し合いに活かすファシリテーションのコツ）の3シリーズ分野10テーマの中から、各会場が希望するテーマを選択した。グループワークは、6名程度のグループに分かれて、模造紙にポストイットに書いた各人の意見、コメントを貼りながらグループ内の総意をまとめる作業を行った。

また、各回研修終了後には、研修の資料や時間構成等に関する満足度、明日から実践したいと感じたこと、今後の研修についてのアイデアなどについて、自記式無記名のアンケートを実施、集計した。量的指標については、前年度までの結果と比較した。また、一連の研修に初めて参加した運営側スタッフからの意見も聴取した。

【結果】

今回の6回では、出前講座受入先の選択に基づき、以下のテーマが扱われた。本報告書執筆中に第7・8回としてヘルスリテラシーについても研修を行っているが、それらは前年度からの継続で財源が異なるため別途報告する。

- 第1回 9月21日 話し合いに活かすファシリテーションのコツ
- 第2回 9月26日 循環器疾患の1次から3次予防
- 第3回 10月7日 話し合いに活かすファシリテーションのコツ
- 第4回 10月13日 実践で使えるデータ分析の知識とスキル
- 第5回 10月21日 健診で気になる子の支援
- 第6回 11月8日 骨粗しょう症・ロコモ対策

研修全体の感想として、本年度の全ての回次において「この研修への参加を同僚にお勧めしたいと思う」と概ね9割以上の参加者が回答した（表1）。研修運

営については、各回で 85%以上の参加者から、配布資料、研修の進行が適切と回答した。一方で、時間配分の適切さについては開きが見られた(63~95%)。研修内容については、各回で 85%以上の参加者から、講義内容が理解できた、講義や話し合いは今度の保健活動に役立つとの回答があった。

本年度以前の研修も同様の結果であった(表 2~3)。

明日から実践したいこととしては、話し合いや伝え方の手法といったファシリテーション技法に関する事、相手をほめることなどコミュニケーションに関する事、講義そのもので得た知識に基づく自身や身内から始める健康管理や保健活動現場での活用といったものがあった。

今後の研修に対するアイデアは、今回のようなグループワーク、ファシリテーションやコミュニケーション向上に関する事、卒後再教育の観点からの知識の補強などが、参加者からは挙げられた。

また、運営側スタッフからの意見については、人数は 6 人程度でグループワークにはちょうど良い、発言の機会が得られやすいようであった。扱ったテーマは参加者が持ち帰って実行できるような工夫がなされ、地域の保健活動の実際の要望に合致していた、などの意見があった。改善点としては、休憩時間などのタイムスケジュールを参加者に事前に伝えておいたほうがよかったのでは、作業と討議の時間をもう少しとってもらいやすいのでは、地域で働く受講者にとっては少し難しいものもあったのではないかと、などの感想が得られた。

【考察】

保健活動の実践に役立つ講義に続き、グループワークにおいて、自らが明日より実践したいこと、住民に伝えてみたいことを共有することが特徴の本研修は、参加者から満足度の高い評価を得られた。住民に伝える前に、まずは自身で出来ること、やってみたいことを整理するプロセスは、研修内容を適切な手法で、納得して伝えるためには必要であると、住民との情報の橋渡し役として、日々、コミュニケーション手法の向上に尽力している保健師等参加者からのコメントからは推察された。この研修への参加を同僚に勧めたいと感じた参加者が概ね 9 割以上見られたことは、保健師等のニーズに研修内容が合致していたことや、知識や技能を参加者以外にも普及できる可能性を、この研修が秘めていることを示しているものと考えられる。一方で、参加者からも運営側からもコメントがあっ

た時間配分の適切さについては、回次の間で満足度の違いが見られたことから、研修会で扱う量をどのくらいとするかを見極めることが、今後、同様の研修を開催する上での課題となる。

講演のテーマは、放射線シリーズ（例：放射線の健康リスクに関するコミュニケーション、放射線誘発甲状腺癌と甲状腺健診）、ライフステージ別シリーズ（例：健診で気になる子の支援、循環器疾患予防、骨粗しょう症・ロコモティブシンドローム対策、など）、保健活動シリーズ（例：ヘルスリテラシー、話し合いに活かすファシリテーションのコツ）の3類型を提案した。今回の6回を通じて、ライフステージ別シリーズ3件、保健活動シリーズ3件の希望があった一方で、放射線の健康影響に関する講演の要望がなかった。これは現場のニーズとして、放射線関係については新たに学ぶのではなく、いろいろな手段で既に学んでいること、敢えて放射線をクローズアップせず、他の研修のメニューの一つとしても差し支えない段階になっていることが推察される。

平成23年度の出前講座開始以来、毎年、内容や研修開催手法の充実を図ってきたが、平成29年度以降は、研修対象を労働者である保健師等から拡大し、また、内容もリスクコミュニケーションに軸足を置きつつも、保健師らとコミュニティ内で重要な役割を担う住民と少人数でのリスク対策に関する共考活動や、災害発生直後の一時避難に関する机上演習キットを用いた非常時対応の能力育成を念頭にした研修会実施を目指す。文部科学省「リスクコミュニケーションのモデル形成事業（機関型）」に応募、採択されたことから、今までの研修で得られた知見を更に活かして、研修を拡大実施することとする。

表1 参加者による研修評価：平成28年度

| | 「(大変) そう思う」 (%) | | | | | |
|-------------------|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回 | 第6回 |
| (参加者数) | 17 | 23 | 13 | 18 | 24 | 30 |
| (回答者数) | 16 | 21 | 13 | 18 | 19 | 28 |
| 研修の資料や進・について | | | | | | |
| 配布資料は適切だった | 94 | 90 | 92 | 100 | 100 | 96 |
| 時間配分は適切だった | 81 | 95 | 85 | 94 | 63 | 79 |
| 進・は適切だった | 94 | 95 | 85 | 100 | 100 | 86 |
| 研修の内容について | | | | | | |
| 講義内容について理解できた | 94 | 86 | 92 | 94 | 95 | 92 |
| 講義は今後の保健活動に役・つと思う | 94 | 90 | 85 | 100 | 95 | 96 |
| 話し合いは今後の活動に役・つと思う | 94 | 90 | 92 | 94 | 89 | 92 |
| 学んだことを同僚に伝えたいと思う | 94 | 86 | 92 | 94 | 95 | 92 |

表2 参加者による研修評価：平成27年度

| | 「(大変) そう思う」 (%) | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|-----------------|------------|--------|--------|--------|------------|------------|--------|--------|------------|------------|--------|--------|
| | 第1回 第1部 | 第1回 第2部 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回 第1部 | 第5回 第2部 | 第6回 | 第7回 | 第8回 第1部 | 第8回 第2部 | 第9回 | 第10回 |
| | (参加者数) | (参加者数) | (参加者数) | (参加者数) | (参加者数) | (参加者数) | (参加者数) | (参加者数) | (参加者数) | (参加者数) | (参加者数) | (参加者数) | (参加者数) |
| (回答者数) | 26 | 27 | 36 | 9 | 18 | 17 | 16 | 30 | 20 | 21 | 10 | 21 | 60 |
| (回答者数) | 26 | 27 | 35 | 9 | 10 | 13 | 12 | 29 | 19 | 19 | 10 | 20 | 49 |
| 研修の資料や進・について | | | | | | | | | | | | | |
| 配布資料は適切だった | 92 | 96 | 100 | 100 | 60 | 85 | 91 | 93 | 95 | 94 | 100 | 100 | 96 |
| 時間配分は適切だった | 88 | 89 | 91 | 100 | 90 | 46 | 100 | 82 | 58 | 83 | 80 | 65 | 86 |
| 進・は適切だった | 92 | 93 | 97 | 100 | 70 | 85 | 100 | 90 | 89 | 83 | 90 | 100 | 92 |
| 研修の内容について | | | | | | | | | | | | | |
| 講義内容について理解できた | 92 | 96 | 97 | 100 | 80 | 77 | 83 | ※1 | 95 | 89 | 70 | ※2 | 92 |
| 講義は今後の保健活動に役・つと思う | 96 | 100 | 79 | 100 | 90 | 85 | 100 | 97 | 95 | 95 | 90 | 100 | 94 |
| 話し合いは今後の活動に役・つと思う | 92 | 100 | 97 | 89 | 100 | 77 | 100 | 100 | 95 | 83 | 80 | 100 | 89 |

※1 ヘルスリテラシーの基礎について理解できた 86%

ヘルスリテラシーの技術について理解できた 79%

※2 講義（基礎）について理解できた 100%

講義（応用）について理解できた 85%

表3 参加者による研修評価：平成26年度

| | 「(大変) と思う」 (%) | | | | | | | | | | | |
|-------------------|----------------|-----|-----|-----|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------|
| | 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回 第1部 | 第5回 第2部 | 第6回 第1部 | 第6回 第2部 | 第7回 | 第8回 | 第9回 | 第10回 |
| (参加者数) | 45 | 12 | 16 | 14 | 22 | 12 | 12 | 10 | 20 | 16 | 33 | 21 |
| (回答者数) | 38 | 12 | 16 | 14 | 19 | 12 | 11 | 10 | 20 | 14 | 31 | 17 |
| 研修の資料や進・について | | | | | | | | | | | | |
| 配布資料は適切だった | 79 | 100 | 75 | 93 | 89 | 100 | 100 | 100 | 95 | 86 | 90 | 88 |
| 時間配分は適切だった | 100 | 92 | 81 | 79 | 89 | 92 | 91 | 90 | 95 | 83 | 87 | 94 |
| 進・は適切だった | 100 | 100 | 88 | 93 | 89 | 100 | 100 | 100 | 95 | 92 | 97 | 94 |
| 研修の内容について | | | | | | | | | | | | |
| 講義内容について理解できた | 100 | 92 | 88 | 93 | 84 | 100 | 100 | 100 | 95 | 92 | 97 | 100 |
| 講義は今後の保健活動に役・つと思う | 97 | 100 | 88 | 93 | 84 | 100 | 100 | 100 | 90 | 92 | 97 | 100 |
| 話し合いは今後の活動に役・つと思う | 95 | 100 | 88 | 92 | 79 | ※1 | 100 | ※2 | 100 | 100 | 97 | 100 |

※1 今回第2部の話し合いについて、話し合いは今度の保健活動に役立つと思う 100%

前回の振り返りについて、学んだことを保健活動に活かせた 83%

※2 今回第2部の話し合いについて、話し合いは今度の保健活動に役立つと思う 100%

前回の振り返りについて、学んだことを保健活動に活かせた 57%

添付資料

| | | |
|-------|-------------------|------------|
| 資料1. | 保健師等支援研修会（9月21日） | 開催要領・プログラム |
| 資料2. | 出前講座報告書（9月21日） | |
| 資料3. | 保健師等支援研修会（9月26日） | 開催要領・プログラム |
| 資料4. | 出前講座報告書（9月26日） | |
| 資料5. | 保健師等支援研修会（10月7日） | 開催要領・プログラム |
| 資料6. | 出前講座報告書（10月7日） | |
| 資料7. | 保健師等支援研修会（10月13日） | 開催要領・プログラム |
| 資料8. | 出前講座報告書（10月13日） | |
| 資料9. | 保健師等支援研修会（10月21日） | 開催要領・プログラム |
| 資料10. | 出前講座報告書（10月21日） | |
| 資料11. | 保健師等支援研修会（11月8日） | 開催要領・プログラム |
| 資料12. | 出前講座報告書（11月8日） | |

平成 28 年度 保健師等支援研修会 開催要領

- 1 目的 ① 保健師等の知識・技術の向上
 ② 保健師等同士、保健師等と医師の情報交換
 ③ 保健師等のストレス、不安軽減

- 2 日時 平成 28 年 9 月 21 日（水）13:30-15:30

- 3 会場 福島県県中保健福祉事務所 大会議室（2 階）

- 4 対象 主に地域保健事業に従事する保健師
 ※栄養士、看護師、歯科衛生士等でご関心のある方のお申込みも歓迎いたします。

- 5 内容 ◎講義「話し合いに活かすファシリテーションのコツ」
 ◎講師 福島県立医科大学医療人育成・支援センター
 助手 安井清孝

- 6 参加費 無料

- 7 申込方法 別紙申込書によりおとりまとめの上、ファックスまたはメールにて、
 平成 28 年 9 月 9 日（金）までにお申し込みください。

- 8 備考 研修会のテーマとは別に、放射線に関する質問も受け付けております。
 当日、放射線質問カードを配布いたしますのでご質問のある方はご記入
 ください。後日回答いたします。

申込先：福島県立医科大学附属病院 病院経営課 半沢

FAX 024-547-1988

メール seisa@fmu.ac.jp

プログラム

| | |
|---------|--|
| 13 : 10 | 受付 |
| 13 : 30 | 開会 |
| 13 : 40 | 第一部：知識の共有 ◆講義 「話し合いに活かすファシリテーションのコツ」 ◆講師 福島県立医科大学医療人育成・支援センター 助手 安井清孝 |
| 14 : 50 | 休憩 |
| 15 : 00 | 第二部：話し合い ◆進行 福島県立医科大学総合科学教育研究センター 教授 後藤あや ◇グループに分かれての話し合い「今日学んだこと」 ※各グループにファシリテーター配置 ◇グループ発表 ◆講評 福島県立医科大学医療人育成・支援センター 安井清孝 |
| 15 : 30 | 閉会 <u>※閉会后、「研修評価アンケート」の記入をお願いいたします。</u> |

出前講座報告書

Vol.1

テーマ

日 時: 2016年9月21日
開催場所: 県中保健福祉事務所

「話し合いに活かすファシリテーションのコツ」



ファシリテーションは、組織や地域の話し合い、研修等で参加者が主体的にテーマに向き合い、問題解決や学習内容の習得にいたるまでの道筋を組み立てるための技術です。技術といっても、環境を整え内容を分かりやすく明示することや、話し合いをしやすいするための工夫など、参加者への思いやりがキーポイントとなります。

講義の様子

90分のコースで、講義の合間に2つのワークを挟み、皆さん積極的に参加して下さいました。前半はアイスブレイクから始まり、ファシリテーションの概念、歴史、活用の場について解説しました。後半は話し合いや研修を進める上で困ること、ファシリテーションの4ステップ、ファシリテーションのコツ等について解説しました。



講師紹介



福島県立医科大学
医療人育成・支援センター
助手 安井 清孝

1970年 東京・赤羽生まれ

1997年 看護師免許取得

2003年から慶応義塾大学医学部シミュレーションラボ管理者として医療教育に従事。
この時からシミュレーション教育を通じてファシリテーション技術を体得。

2012年から東日本大震災後に設立された福島県立医科大学災害医療総合学習センター
助手。

趣味：キックボクシング



グループワーク



3グループに分かれ、話し合いをまとめるのがうまい人をイメージしてもらい、その人のどういう点が優れており、その優れた点を習得するためにはどうしたらよいかということについて、マトリックスを活用して考えました。

復習ポイント

アンケート集計

参加者は17名、アンケート回収は16名でした。

| 評価項目 | (そう)思う(※) |
|-------------------|-----------|
| 研修の資料や進行について | |
| 配布資料は適切だった | 94% |
| 時間配分は適切だった | 81% |
| 進行は適切だった | 94% |
| 研修の内容について | |
| 講義内容について理解できた | 94% |
| 講義は今後の保健活動に役立つと思う | 94% |
| 話し合いは今後の活動に役立つと思う | 94% |
| 学んだことを同僚に伝えたいと思う | 94% |

* 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

- ・ファシリテーションの4段階は？
- ・発言を引き出すためのポイントは？
- ・優先順位をつけるためのツールの例は？

編集後記

本年度初めての出前講座は、新しいテーマであるファシリテーションから始まりました。実用的な技術を、たくさんの演習が入った講義で、とても楽しく学ぶことができました。このテーマは出前の人気メニューになりそうです。(後藤)

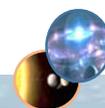
Organized by FMU



性差医療センター
災害医療総合学習センター
医療人育成・支援センター
総合科学教育研究センター
公衆衛生学講座

本ニュースレターのデザインはご当地シリーズです。

出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。



プログラム

| | |
|---------|---|
| 13 : 40 | 受付 |
| 14 : 00 | 開会 |
| 14 : 10 | 第一部：知識の共有 ◆講義 「循環器疾患の1次から3次予防」 ◆講師 太田西ノ内病院 循環器内科 医長 遠藤教子 |
| 15 : 00 | 休憩 |
| 15 : 10 | 第二部：話し合い ◆進行 福島県立医科大学総合科学教育研究センター 教授 後藤あや ◇グループに分かれての話し合い「今日学んだこと」 ※各グループにファシリテーター配置 ◇グループ発表 ◆講評 太田西ノ内病院 循環器内科 遠藤教子 |
| 16 : 00 | 閉会 <u>※閉会后、「研修評価アンケート」の記入をお願いいたします。</u> |

出前講座報告書

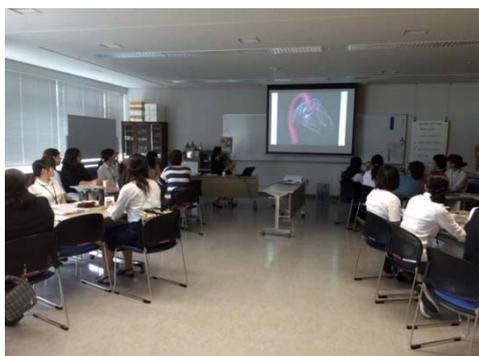
Vol.2

テーマ

日 時: 2016年9月26日
開催場所: いわき総合保健福祉センター

「循環器疾患の1次から3次予防」

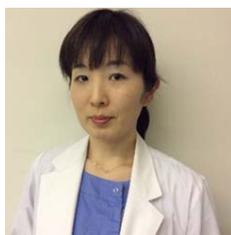
心臓リハビリテーションは、心疾患発症後いかに再入院させないかを目的に、一般的な内服や生活指導による疾病管理に加えて、運動療法を多職種が関わって行う包括的プログラムです。



講義の様子

前半は循環器疾患の予防について、心臓カテーテルの画像を見ながらの基本的な知識から、食事（主に塩分）による一次予防、さらには心臓リハビリテーションによる三次予防まで、幅広く学ぶ講義でした。

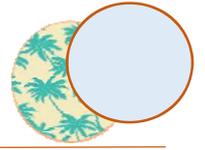
講師紹介



太田西ノ内病院
循環器内科 医長
遠藤 教子先生

H25年から現職。心疾患の再発防止プログラムとして、心臓リハビリテーションという、非常に効果的な治療があります。当院では2005年から再発リスク低減のため導入しています。日本ではようやく普及のきざしが見えてきましたが、まだまだ認知度は低いのが現状です。少しでも多くの医療従事者、そして市民の方に伝えていくことが大切と考え、活動しています。

グループワーク



グループに分かれて話し合った中で多く出てきたキーワードは、心リハ、減塩、フレイル、Fickの式でした。（←ポストイット入力で要確認）



復習ポイント



- ・保健指導の必要性を伝えるにはどうしたらよいでしょう？
- ・食事療法(とくに減塩)の意義は？
- ・心臓リハビリの必要性は？
- ・フレイルの理解を深めましょう。

アンケート集計

参加者は23名、アンケート回収は21名でした。

| 評価項目 | (そう)思う(※) |
|-------------------|-----------|
| 研修の資料や進行について | |
| 配布資料は適切だった | 90% |
| 時間配分は適切だった | 95% |
| 進行は適切だった | 95% |
| 研修の内容について | |
| 講義内容について理解できた | 86% |
| 講義は今後の保健活動に役立つと思う | 90% |
| 話し合いは今後の活動に役立つと思う | 89% |
| 学んだことを同僚に伝えたいと思う | 86% |

* 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計



編集後記

減塩と運動という従来の保健指導のポイントに加えて、心リハ、フレイル、Fickの式など新しい言葉も学べた研修会でした。遠藤先生が10月1日開院した「長者2丁目かおりやま内科」(www.kaoriyama-clinic.com/)では、保健指導の指導者を派遣可能だそうです。是非ご活用ください！（後藤）

Organized by FMU



性差医療センター
災害医療総合学習センター
医療人育成・支援センター
総合科学教育研究センター
公衆衛生学講座



本ニュースレターのデザインはご当地シリーズです。

出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。



平成 28 年度 保健師等支援研修会 開催要領

- 1 目的 ① 保健師等の知識・技術の向上
 ② 保健師等同士、保健師等と医師の情報交換
 ③ 保健師等のストレス、不安軽減

- 2 日時 平成 28 年 10 月 7 日（金）10:00-12:00

- 3 会場 福島県県南保健福祉事務所 会議室

- 4 対象 主に地域保健事業に従事する保健師
 ※栄養士、看護師、歯科衛生士等でご関心のある方のお申込みも歓迎いたします。

- 5 内容 ◎講義「話し合いに活かすファシリテーションのコツ」
 ◎講師 福島県立医科大学医療人育成・支援センター
 助手 安井清孝

- 6 参加費 無料

- 7 申込方法 別紙申込書によりおとりまとめの上、ファックスまたはメールにて、
 平成 28 年 9 月 28 日（水）までにお申し込みください。

- 8 備考 研修会のテーマとは別に、放射線に関する質問も受け付けております。
 当日、放射線質問カードを配布いたしますのでご質問のある方はご記入
 ください。後日回答いたします。

申込先：福島県立医科大学附属病院 病院経営課 半沢

FAX 024-547-1988

メール seisa@fmu.ac.jp

プログラム

| | |
|---------|--|
| 9 : 40 | 受付 |
| 10 : 00 | 開会 |
| 10 : 10 | 第一部：知識の共有 ◆講義 「話し合いに活かすファシリテーションのコツ」 ◆講師 福島県立医科大学医療人育成・支援センター 助手 安井清孝 |
| 11 : 00 | 休憩 |
| 11 : 10 | 第二部：話し合い ◆進行 福島県立医科大学総合科学教育研究センター 教授 後藤あや ◇グループに分かれての話し合い「今日学んだこと」 ※各グループにファシリテーター配置 ◇グループ発表 ◆講評 福島県立医科大学医療人育成・支援センター 安井清孝 |
| 12 : 00 | 閉会 <u>※閉会后、「研修評価アンケート」の記入をお願いいたします。</u> |

出前講座報告書

Vol.3

日 時:2016年10月7日
開催場所:県南保健福祉事務所

テーマ

「話し合いに活かすファシリテーションのコツ」

講義の様子

ファシリテーションは、組織や地域の話し合い、研修等で参加者が主体的にテーマに向き合い、問題解決や学習内容の習得にいたるまでの道筋を組み立てるための技術です。技術といっても、環境を整え内容を分かりやすく明示することや、話し合いをしやすくするための工夫など、参加者への思いやりがキーポイントとなります。



講師紹介



福島県立医科大学
医療人育成・支援センター
助手 安井 清孝

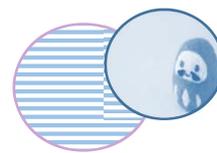
1970年 東京・赤羽生まれ

1997年 看護師免許取得

2003年から慶応義塾大学医学部シミュレーションラボ管理者として医療教育に従事。この時からシミュレーション教育を通じてファシリテーション技術を体得。

2012年から東日本大震災後に設立された福島県立医科大学災害医療総合学習センター助手。

趣味：キックボクシング



グループワーク



90分のコースで、講義の合間に2つのワークを挟み、皆さん積極的に参加して下さいました。前半はアイスブレイクから始まり、ファシリテーションの概念、歴史、活用の場について解説しました。後半は話し合いや研修を進める上で困ること、ファシリテーションの4ステップ、ファシリテーションのコツ等について解説しました。

復習ポイント

アンケート集計

参加者は13名、アンケート回収は13名でした。

- ・ファシリテーションの4段階は？
- ・発言を引き出すためのポイントは？
- ・優先順位をつけるためのツールの例は？

| 評価項目 | (そう)思う(※) |
|-------------------|-----------|
| 研修の資料や進行について | |
| 配布資料は適切だった | 92% |
| 時間配分は適切だった | 85% |
| 進行は適切だった | 85% |
| 研修の内容について | |
| 講義内容について理解できた | 92% |
| 講義は今後の保健活動に役立つと思う | 85% |
| 話し合いは今後の活動に役立つと思う | 91% |
| 学んだことを同僚に伝えたいと思う | 92% |

* 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

編集後記

出前講座の新しいテーマであるファシリテーションを、様々な職種の皆様と学びました。たくさんの演習が入った講義で学んだ実用的な技術を、是非職場で広めてください！ (後藤)



Organized by FMU



性差医療センター
災害医療総合学習センター
医療人育成・支援センター
総合科学教育研究センター
公衆衛生学講座

本ニュースレターのデザインはご当地シリーズです。

出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。



平成 28 年度 保健師等支援研修会 開催要領

- 1 目的
 - ① 保健師等の知識・技術の向上
 - ② 保健師等同士、保健師等と医師の情報交換
 - ③ 保健師等のストレス、不安軽減

- 2 日時 平成 28 年 10 月 13 日（木） 10:30-12:30

- 3 会場 浪江町役場二本松事務所 大会議室（2 階）
〒964-0984
福島県二本松市北トロミ 573 番地(二本松市平石高田第二工業団地内)

- 4 対象 主に地域保健事業に従事する保健師
※栄養士、看護師、歯科衛生士等でご関心のある方のお申込みも歓迎いたします。

- 5 内容 ◎講義「実践で使えるデータ分析の知識とスキル」
◎講師 福島県立医科大学総合科学教育研究センター
教授 後藤あや

- 6 参加費 無料

- 7 申込方法 別紙申込書によりおとりまとめの上、ファックスまたはメールにて、平成 28 年 10 月 4 日（火）までにお申し込みください。

- 8 備考 研修会のテーマとは別に、放射線に関する質問も受け付けております。当日、放射線質問カードを配布いたしますのでご質問のある方はご記入ください。後日回答いたします。

申込先：福島県立医科大学附属病院 病院経営課 半沢

FAX 024-547-1988

メール seisa@fmu.ac.jp

プログラム

| | |
|---------|---|
| 10 : 10 | 受付 |
| 10 : 30 | 開会 |
| 10 : 40 | 第一部：知識の共有 ◆講義 「実践で使えるデータ分析の知識とスキル」 ◆講師 福島県立医科大学総合科学教育研究センター 教授 後藤 あや |
| 11 : 30 | 休憩 |
| 11 : 40 | 第二部：話し合い ◆進行 北里大学看護学部看護システム学 講師 伊藤 慎也 ◇グループに分かれての話し合い「今日学んだこと」 ※各グループにファシリテーター配置 ◇グループ発表 ◆講評 福島県立医科大学総合科学教育研究センター 後藤 あや |
| 12 : 30 | 閉会 <u>※閉会后、「研修評価アンケート」の記入をお願いいたします。</u> |

出前講座報告書

Vol.4

テーマ

日 時:2016年10月13日
開催場所:相双保健福祉事務所

「実践で使えるデータ分析の知識とスキル」

データ分析のスキルは、地域住民のニーズを把握するためにも、実施した事業を評価するためにも必要となる技術です。データ分析のスキルを用いてつくるエビデンスは、よりよい保健サービスを提供するための指針となります。



復習ポイント

- ・データを作成するポイントは？
- ・平均値と中央値の使い分けは？
- ・表、棒グラフ、線グラフ、ヒストグラムを使い分けは？
- ・OpenEpiを使ってカイ2乗検定を試してみましょう。

講師紹介



福島県立医科大学
総合科学教育研究センター
後藤 あや

平成7年山形大学医学部卒業。平成10年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程（国際保健学）修了、平成12年山形大学大学院医学研究科博士課程（公衆衛生学）修了後、米国ポピュレーション・カウンシルのベトナム支部勤務を経て、平成14年より福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、現在、准教授。福島県の県民健康調査「妊産婦に関する調査」の副室長兼任、日本公衆衛生学会モニタリング・レポートシステム委員。平成24年から1年間、ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム研究員。専門領域は、母子保健、国際保健、疫学、人材育成。



講義と演習の様子

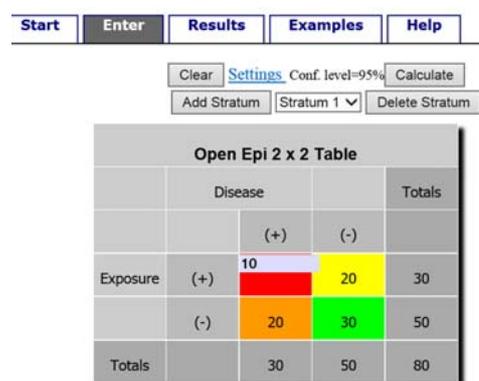


演習が中心の講義で、代表値の算出、基本的な検定方法、そしてグラフの使い分けについて学びました。検定の演習では、手軽にスマホでも分析できるよう OpenEpi を紹介しました。



OpenEpi

<http://www.openepi.com>



アンケート集計結果

参加者は18名、アンケート回収は18名でした。

| 評価項目 | (そう)思う(※) |
|--|---------------------------|
| 研修の資料や進行について 配布資料は適切だった 時間配分は適切だった 進行は適切だった | 100% 94% 100% |
| 研修の内容について 講義内容について理解できた 講義は今後の保健活動に役立つと思う 話し合いは今後の活動に役立つと思う 学んだことを同僚に伝えたいと思う | 94% 100% 94% 94% |

* 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

編集後記

出前講座の新しいテーマとしてこのデータ分析を入れたところ、募集開始直後にお申込みいただきましてありがとうございます。今回の講義内容は、感染症専門誌「インフェクションコントロール」11月号と12月号にまとめて掲載しています。もしご関心ありましたらご覧ください。

(後藤)

Organized by FMU



性差医療センター
災害医療総合学習センター
医療人育成・支援センター
総合科学教育研究センター
公衆衛生学講座



本ニュースレターのデザインはご当地シリーズです。

出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。



平成 28 年度 保健師等支援研修会 開催要領

- 1 目的 ① 保健師等の知識・技術の向上
 ② 保健師等同士、保健師等と医師の情報交換
 ③ 保健師等のストレス、不安軽減

- 2 日時 平成 28 年 10 月 21 日（金）13:00-14:30

- 3 会場 いわき市総合保健福祉センター 健康学習室（3 階）
 〒973-8408 いわき市内郷高坂町四方木田 191

- 4 対象 主に地域保健事業に従事する保健師
 ※栄養士、看護師、歯科衛生士等でご関心のある方のお申込みも歓迎いたします。

- 5 内容 ◎講義「健診で気になる子の支援」
 ◎講師 地方独立行政法人大阪府立病院機構
 大阪府立母子保健総合医療センター
 臨床研究部 臨床研究支援室
 室長 植田 紀美子

- 6 参加費 無料

- 7 申込方法 別紙申込書によりおとりまとめの上、ファックスまたはメールにて、
 平成 28 年 10 月 12 日（水）までにお申し込みください。

- 8 備考 研修会のテーマとは別に、放射線に関する質問も受け付けております。
 当日、放射線質問カードを配布いたしますのでご質問のある方はご記入
 ください。後日回答いたします。

申込先：福島県立医科大学附属病院 病院経営課 半沢

FAX 024-547-1988

メール seisa@fmu.ac.jp

プログラム

| | |
|---------|--|
| 12 : 40 | 受付 |
| 13 : 00 | 開会 |
| 13 : 10 | 第一部：知識の共有 ◆講義 「健診で気になる子の支援」 ◆講師 大阪府立母子保健総合医療センター 臨床研究部 臨床研究支援室 室長 植田 紀美子 |
| 13 : 50 | 第二部：話し合い ◆進行 福島県立医科大学総合科学教育研究センター 教授 後藤あや ◇グループに分かれての話し合い「今日学んだこと」 ※各グループにファシリテーター配置 ◇グループ発表 ◆講評 大阪府立母子保健総合医療センター 植田 紀美子 |
| 14 : 30 | 閉会 <u>※閉会后、「研修評価アンケート」の記入をお願いいたします。</u> |

出前講座報告書



日 時: 2016年10月21日
開催場所: 相双保健福祉事務所
いわき出張所

テーマ

「健診で気になる子の支援」

発達障害の定義、スクリーニング、そして具体的な支援のための保護者とのかかわり方までを学ぶ講義でした。



講義の様子



健診で気になる子の支援というタイトルで、発達障害の定義、スクリーニング、そして具体的な支援や保護者とのかかわり方までを学ぶ講義でした。健診における年齢別評価ポイントや保護者の特性別の関わり方など、現場に活用できる内容でした。

講師紹介



大阪府立母子保健総合医療センター
臨床研究部 室長 植田紀美子先生

自治医科大学卒業、米国ハーバード大学公衆衛生大学院卒業（MPH）、自治医科大学医学博士取得。大阪府立急性期・総合医療センター小児科、大阪府健康づくり感染症課主査、厚生労働省精神保健福祉課心の健康づくり対策官、米国ハーバード大学公衆衛生大学院研究員（日本学術振興会海外特別研究員）等をへて、平成20年より大阪府立母子保健総合医療センター勤務。現在、同センター臨床研究支援室長、遺伝診療科副部長として、障がい児等に関する研究や診療を行う。趣味は、ミュージカル鑑賞、マラソン。



グループワーク

グループワークの時間が非常に短かったのですが、多くの方が「ほめる」ことの大切さを学んだこととしてポストイットに書き出していました。



アンケート集計結果

参加者は24名、アンケート回収は19名でした。

| 評価項目 | (そう)思う(※) |
|--|--------------------------|
| 研修の資料や進行について 配布資料は適切だった 時間配分は適切だった 進行は適切だった | 100% 63% 100% |
| 研修の内容について 講義内容について理解できた 講義は今後の保健活動に役立つと思う 話し合いは今後の活動に役立つと思う 学んだことを同僚に伝えたいと思う | 95% 95% 89% 95% |

* 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

復習ポイント

- ・1歳6か月健診でなぜASDスクリーニングが大事ななの？保護者にどう説明する？
- ・ASDを早期発見するため、健診での訴えのポイントと観察のポイントは？
- ・就学前に軽度ASDを見逃さないようにするための観察ポイントは？
- ・子どものほめ方、具体的にはどうしますか？

編集後記

植田先生には大阪からいらしていただき、お陰様で大変充実した研修会となりました。来年度は出前講座のテーマ募集時に基礎編と応用編に分けることも検討しています。またのご参加をお待ちしております！

(後藤)

Organized by FMU



性差医療センター
災害医療総合学習センター
医療人育成・支援センター
総合科学教育研究センター
公衆衛生学講座

本ニュースレターのデザインはご当地シリーズです。

出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。



平成 28 年度 保健師等支援研修会 開催要領

- 1 目的 ① 保健師等の知識・技術の向上
 ② 保健師等同士、保健師等と医師の情報交換
 ③ 保健師等のストレス、不安軽減

- 2 日時 平成 28 年 11 月 8 日（火）15:00-16:30

- 3 会場 御蔵入交流館（福島県南会津郡南会津町田島字宮本東 2 2）

- 4 対象 主に地域保健事業に従事する保健師
 ※栄養士、看護師、歯科衛生士等でご関心のある方のお申込みも歓迎いたします。

- 5 内容 ◎講義「骨粗しょう症・ロコモ対策」

 ◎講師 福島県立医科大学性差医療センター
 部長 小宮 ひろみ

 福島県立医科大学整形外科学講座
 医師 長谷川 美規

- 6 参加費 無料

- 7 申込方法 別紙申込書によりおとりまとめの上、ファックスまたはメールにて、
 平成 28 年 10 月 27 日（木）までにお申し込みください。

- 8 備考 研修会のテーマとは別に、放射線に関する質問も受け付けております。
 当日、放射線質問カードを配布いたしますのでご質問のある方はご記入
 ください。後日回答いたします。

申込先：福島県立医科大学附属病院 病院経営課 半沢

FAX 024-547-1988

メール seisa@fmu.ac.jp

プログラム

| | |
|---------|--|
| 14 : 40 | 受付 |
| 15 : 00 | 開会 |
| 15 : 10 | 第一部：知識の共有 ◆講義 「骨粗しょう症・ロコモ対策」 ◆講師 小宮 ひろみ（福島県立医科大学性差医療センター） 長谷川 美規（福島県立医科大学整形外科学講座） |
| 16 : 00 | 第二部：話し合い ◆進行 福島県立医科大学医療人育成・支援センター 助手 安井 清孝 ◇グループに分かれての話し合い 「今日学んだことの活用」、「地域の課題」 ※各グループにファシリテーター配置 ◇グループ発表 ◆講評 福島県立医科大学性差医療センター 小宮 ひろみ |
| 16 : 30 | 閉会 <u>※閉会后、「研修評価アンケート」の記入をお願いいたします。</u> |

出前講座報告書



テーマ

日 時: 2016年11月8日
開催場所: 南会津保健福祉事務所

「骨粗しょう症・ロコモ対策」

骨粗鬆症は、骨折のリスクが増大した状態であり、女性に多い疾患です。骨は形成（新しく作られること）と吸収（壊されること）を繰り返しています。閉経後、女性ホルモンであるエストロゲンが低下すると、吸収が形成より亢進するため骨密度は急激に低下します。また、骨量は18歳頃最大に到達しますので、思春期における月経発来の有無、栄養、運動は重要です。更年期では、自分の骨密度を知ること、また食生活（カルシウム、ビタミンD、ビタミンKを含め）、運動など生活習慣全体を見直すことが大切です。

骨粗鬆症治療の目的は骨折予防であり、そのためには骨量改善と転倒予防が大切です。骨量改善には食事・運動といった生活習慣に加え薬物治療を適切に継続することが重要です。転倒予防には、ロコモチェックやロコモ度テストで運動器の衰えを早めに察知し、早めのロコモ対策が有効です。

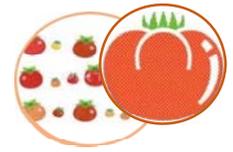
グループワーク

話し合いでは、今日習った骨粗鬆症について、地域包括ケア体制のなかでどう活かすのかということについて、活発に意見交換をして頂きました。



復習ポイント

- 女性のライフステージにおいてエストロゲンはどのように分泌されるのでしょうか。
- エストロゲンと骨密度はどのような関連があるのでしょうか。
- 運動を効果的に継続するための工夫を考えてみましょう。
- 骨粗鬆症の治療において、薬物治療はなぜ必要なのでしょう。



講師紹介

鹿島厚生病院整形外科
医師 長谷川 美規



専門

整形外科・骨粗鬆症
変形性関節症（保存的治療）
慢性疼痛

福島県立医科大学 性差医療センター
部長 小宮 ひろみ



専門

産婦人科・生殖内分泌学
性差医療・漢方医療

アンケート集計結果

参加者は30名、アンケート回収は28名でした。



| 評価項目 | (そう) 思う (※) |
|--|--------------------------|
| 研修の資料や進行について 配布資料は適切だった 時間配分は適切だった 進行は適切だった | 96% 79% 86% |
| 研修の内容について 講義内容について理解できた 講義は今後の保健活動に役立つと思う 話し合いは今後の活動に役立つと思う 学んだことを同僚に伝えたいと思う | 93% 96% 92% 93% |

* 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

編集後記

金沢大学から当日参加していた町田先生からのメッセージです。

- ・ ロコモとコツソは、「誰でもなり得ること」を強調した講義だったので、参加した皆様の当事者意識が芽生えたと思います。
- ・ ディスカッションで話し合ったこと（町民に伝えたいこと・オレンジプランに向けて出来ること）も明確でした。

この出前講座が、ロコモ・コツソ対策が地域で進むきっかけになれば幸いです。
(後藤・町田)

本ニュースレターのデザインはご当地シリーズです。

出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。

Organized by FMU



性差医療センター
災害医療総合学習センター
医療人育成・支援センター
総合科学教育研究センター
公衆衛生学講座

